

## ○ 音声CDを最大限活用する方法

この問題集は、実際に音声聞きながら解く仕組みになっています。

そのため、いわゆる「本文」は問題のページには書かれていません。音声を文字に起こしたものは、巻末にまとめられています（音声文・解答・解説……81ページ）。

この巻末の音声文をうまく利用すれば、難易度の調節をできるようになります。



全編、著者・福嶋隆史が直接話して吹き込んだ音声CD！  
ふくしま国語塾で授業を受けているかのような臨場感。

音声DL用URLおよびQRコード

<https://ssl.daiwashuppan.com/event/6292/>



ユーザーIDと音声DL用パスワードはCDのレーベルに記載されています。

実際の音声の一部を著者サイト\*で試聴できます。  
※ <http://www.yokohama-kokugo.jp>

通常は、巻末の音声文は読まずに音声だけを聞き、問題に答えるようにしてください。巻末の音声文は、採点など

## ○ 日本語を母語とする子のための、 全く新しい「日本語リスニング」問題集！

この問題集の主な対象は、小学生です。

問題集と言えば多くは学年別になっていますが、国語という教科はそもそも学年という輪切りに適しません。

国語力というものは、スポーツとも似て、学年あるいは年齢というものにあまり影響を受けないのです。

そこで、この問題集もまた、他の「ふくしま式」シリーズと同様、学年の区別はありません。

とはいえ、取り組む際の目安となるよう、難易度を次のように分類しています。

- ★ ……小学1・2年生以上に適しています
- ★★ ……小学3・4年生以上に適しています
- ★★★ ……小学5・6年生に適しています

ただ、繰り返しますが、これは目安にすぎません。

小問(①、②、……)が複数ある問題の場合、その平均レベルをとって難易度を決めています。ですから、たとえば★★の問題で、①はやさしくて⑤は難しい、などということがあり得ます。

の際の確認用に掲載しています。

しかし、どうしても難しく感じる場合は、たとえば次のような方法で進めてみてください。

「まず、音声を何度か聞く。」

次に、巻末の音声文を読んで確認する。

そして、巻末を見ずに解く」

最後の「巻末を見ずに解く」がポイントです。文字を見ながら解いてしまうと「読解」になってしまい、この本の価値が半減します。

音声を聞く回数についても、気を配りましょう。

- ・ 1回だけ聞いて答える……難易度・高
- ・ 2回聞いて答える……難易度・中
- ・ 3回以上聞いて答える……難易度・低

★の問題は1回、★★★の問題は3回、などと決めて取り組んでみてもよいでしょう(★については次ページ参照)。  
なお、音声文単位(トラック単位)でなく小問単位でリピートする際は、番号に付された数を目安にしてください。

0:29 ↑(リピートガイド)

③ 頭出しの目安。小問③が0分29秒から始まることを意味する(再生デバイスによって多少のズレあり)。

なお、やってみれば分かることですが、中学生・高校生、あるいは大学生や大人であっても、役に立つ実感を得られるはずです。

なにしろ、「母語である日本語を聞く技術」を細分化されたステップに沿って学ぶという経験は、普通どんな日本人にとっても初めてに近いはずなのです。

リスニングと言えば、英語が浮かびます。

いや、英語しか浮かびません。

日本語のリスニング練習というものは、「日本語を学んでいる外国人」ならまだしも、「日本語を母語とする日本人」が行うものではない——世間では、暗黙のうちにそう思われているのでしょうか。

しかし、やってみれば、分かります。

今までの認識が間違っていたということが。

日本人であれば日本語は聞けるもの——そういう考えは誤りなのだということが。

ちなみに、学校の通知表の国語の評定欄には、「話す・聞く」という項目があります。

これ、評価の材料は何なのかと疑問に思ったことはありませんか？ 残念ながら、実にいい加減な材料でしか評価されていないのが現実です。

この問題集は、そんな現実を黙認している先生方が手にしても、気づかされることが多い本になっているはずですよ。